

デジタルを活用した避難支援モデルの構築

株式会社建設システム × 静岡市福祉総務課 | 所在地 〒420-0853 静岡県葵区追手町5-1 静岡庁舎新館14階（静岡市保健福祉長寿局 健康福祉部福祉総務課） | メールアドレス fukushisoumu@city.shizuoka.lg.jp | 担当者 三室 智吉

インパクトサマリー

2026年3月現在

対象としている社会課題

行政は毎年、避難行動要支援者になりうる可能性のある方のうち 6000 名に連絡し、そのうち 1000 名ほどから返事をいただいています。その内容をもとに、約 1000 自治会分の名簿を作成し、紙で取りまとめて配布しています。しかし、このような紙の仕組みでは情報更新に手間がかかります。また、制度に登録済みの要支援者のうち、支援者を確保できているのは 16%にすぎません。さらに、紙の仕組みではリアルタイムで安否や支援状況を共有できないため、災害時の支援のタイミングや質にも差が生じてしまいます。このような情報管理の遅れや担い手不足、支援の質のばらつきは、要支援者の安全を脅かす社会課題となっています。

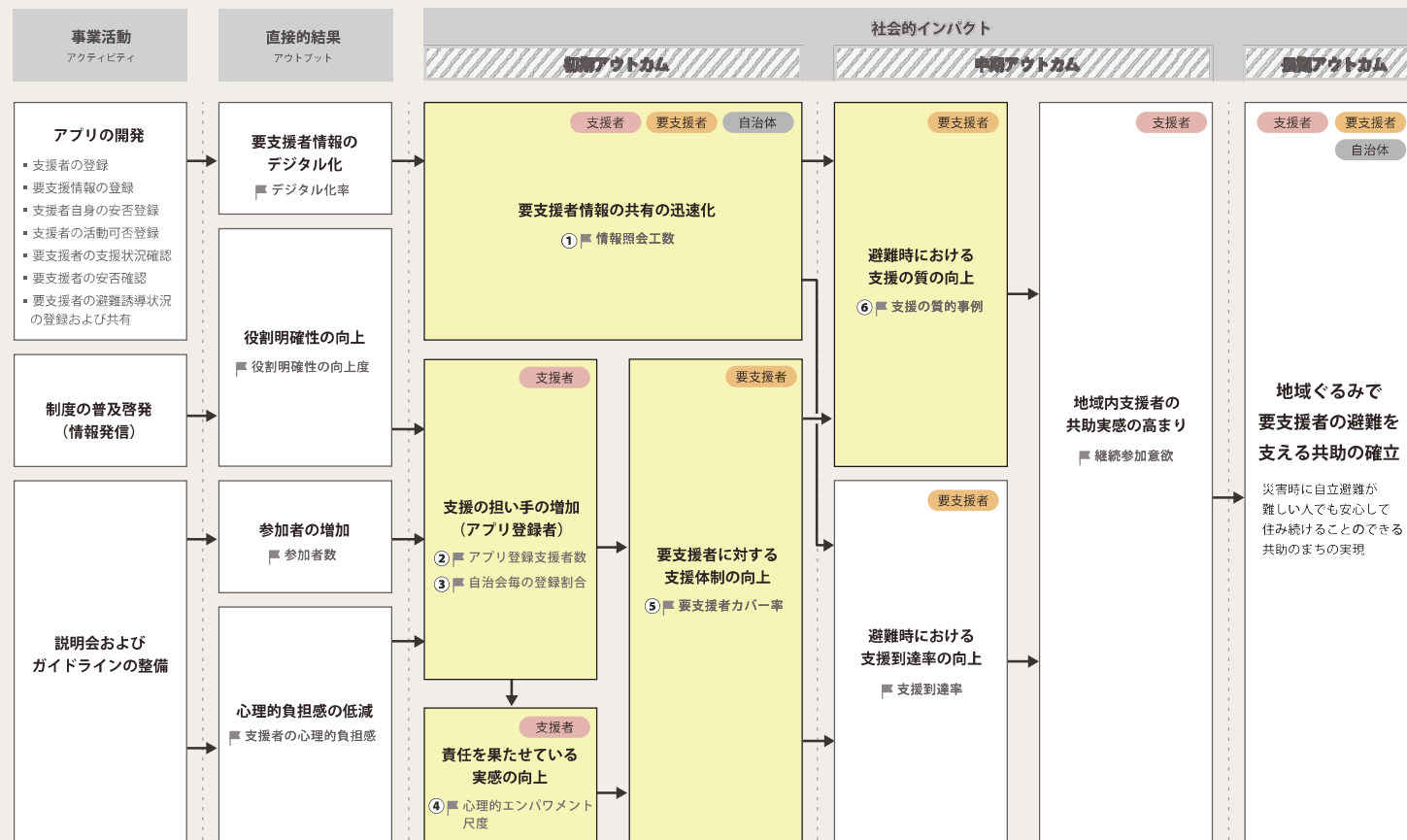
インパクト戦略

長期アウトカムは、地域ぐるみで要支援者の避難を支える共助が確立されることです。実現に向けて、紙の名簿などに分散している要支援者の情報をアプリで一元化し、居場所やニーズを常時把握できるようにします。情報更新や共有の負担を減らし、支援者が自分の役割を理解したうえで、リアルタイムに避難支援を提供できる体制を整備します。情報の一元化は支援の到達範囲を広げ、情報のリアルタイム共有は支援のタイミングと質を高めます。アプリを活用することで、支援者の募集や継続参加が安定します。こうした成果が連鎖し、長期アウトカムにつながります。共助の文化が育まれることで、要支援者が安心して暮らせる社会の実現を目指します。

ロジックモデル

めざす社会的な成果を明確にし、辿り着くための道筋を表した「社会的インパクトをうみだす設計図」

凡例 | 指標 | ① 主な成果



共創メッセージコメント

福祉総務課 地域福祉係 副主幹 三室 智吉

静岡市福祉総務課の担当として、災害時に自力で避難することが難しい市民の皆さんを支える仕組みを強化したいと考えています。紙の名簿に頼った現行制度では運用の負担が大きく、情報の更新や共有が遅れがちです。本プロジェクトでは、総合防災アプリ「クロスゼロ」を活用して要支援者や支援者の情報を統合し、リアルタイムに状況を把握できるようにします。支援者の役割を明確にし、地域全体で支え合う文化を育てていきたいと考えています。多くの自治会、福祉サービス事業者、民生委員の皆さまにご理解とご協力をいただき、ともに安心安全なまちをつくりましょう。



取組内容

機能拡充による情報統合とリアルタイム共有

総合防災アプリ「クロスゼロ」に避難支援機能を追加し、支援者登録、要支援者の避難経路や配慮事項の登録、支援者の安否や活動可否、要支援者の安否・誘導状況の記録・共有をアプリで一元化します。備蓄管理や掲示板、ハザードマップ、避難所情報と連携し、発災前から情報をリアルタイムで共有して支援のタイミングと質を高めます。紙の名簿作成や配布作業が不要になって支援者の心理的負担や行政の業務負担を減らします。数万人が利用するプラットフォームを活用することで導入のハードルを下げ、地域ぐるみで支援の実行性を高めていきます。

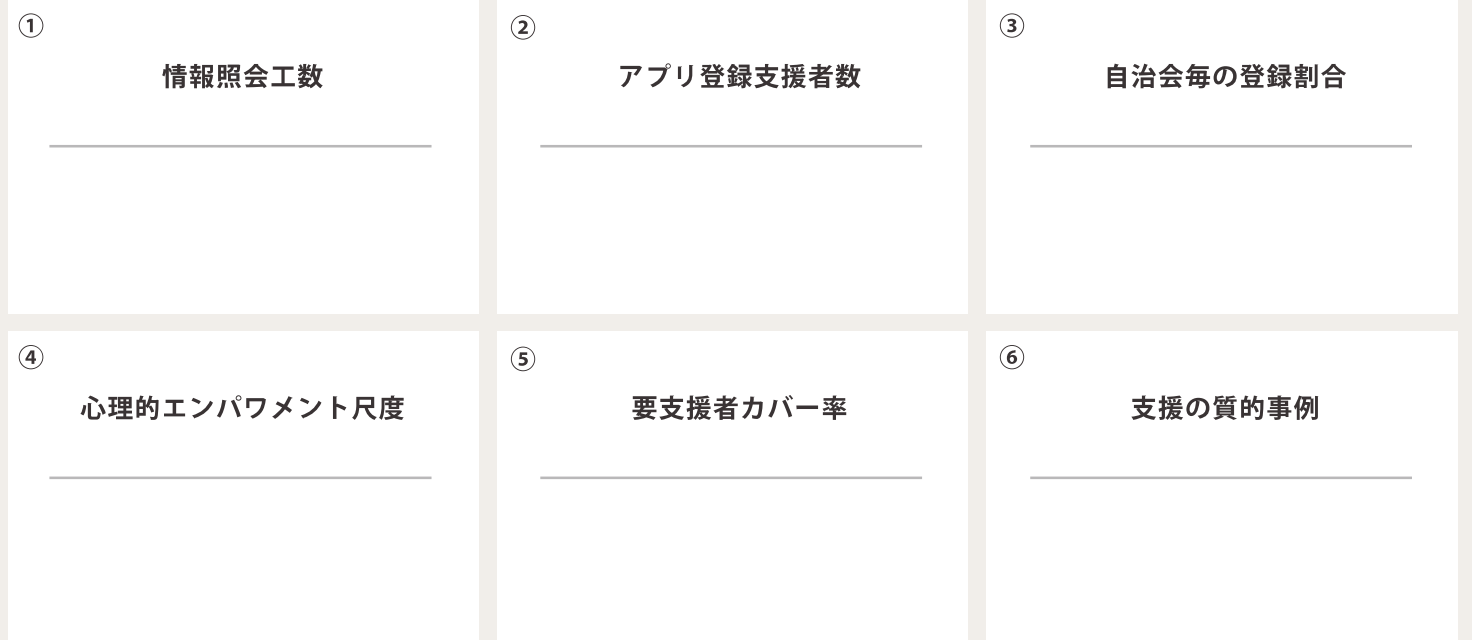
制度の普及啓発と支援者育成

制度理解と参加率を高めるため、自治会や自主防災組織向けに説明会や勉強会を開催します。そこで、制度の目的と支援者の役割を伝えます。また、地域の支援者登録を促し、要支援者への支援体制を向上させていきます。アプリ操作ガイドラインやマニュアルを整備し、スマホ操作に不安のある高齢支援者には職員や KENTEM スタッフが伴走支援を行います。自治会へのヒアリングやアンケートで課題を把握し、地域の声を反映して仕組みを改善します。また、活動の成果やエピソードを共有し、共助への共感を育んでいきます。



主な成果

凡例 | ① ロジックモデルの指標



共創メッセージコメント

株式会社建設システム 社長室長 鈴木 敏史

私たちは「テクノロジーの力で命と暮らしを守る」を使命に、備蓄管理や安否確認、掲示板やチャット、ハザードマップなど複数の機能を備えた総合防災アプリを提供してきました。今回、静岡市と連携し、避難行動要支援者避難支援制度をデジタル化する機能を「クロスゼロ」に追加します。平時からコミュニケーションを取り合うことで、地域で支え合う意識が高まり、担い手の継続参加につながります。長期的には他地域にも展開して日本中の共助を支えていきたいと考えています。デジタルが苦手な方にも寄り添ったサポートを行いますので、多くの自治会や団体にご参加いただけたら嬉しいです。

